

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心豊かに！	①豊かな心の育成 ②学力向上 ③特別支援教育の充実 ④信頼される学校づくり

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

3 目標・評価

①豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から 意見や提言など	
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育が充実できたか	・「人権教室」を毎月設定し、命やなかまづくりについて考え、意識を高め、アンケートで、思いやりの項目の肯定的評価が昨年度を上回る。	・人権教室、平和集会を学級・学年・全校で実施する。	B	・学校便りや学年通信などでいじめや人権問題について取り上げ、保護者への啓発ができた。 ・学年朝会の形態で人権教室を実施し、学年で共通認識をもつことができた。 ・児童の人権を大切にすることは育てているように思われるが、不適切な言葉づかからのトラブルが見られるなど、生活の中での実践力を高める必要がある。	・学校生活の中で不適切な言葉づかいを見逃さないと同時に、その場で適切に指導するように努める。 ・ワークショップ形式など疑似体験的な活動を取り入れながら、子どもの実践力を高めるための指導を行う。	A	挨拶については、保護者、児童、職員で温度差があるようだが、まずは、子どもたちが「自分は挨拶が上手にできているぞ」という思いをうけとめることが大切かなと思う。 ・学んで気づく思いやりとともに、どんな思いやりのある環境で育つかということも大きな要因かもしれない。大人のあり方が問われている。
		・思心地のよい学級づくりができたか	・OUを年2回実施し、学級生活満足度の児童の数がどの学級も70%を超す。 ・気持ちのよい挨拶ができる児童を70%以上にする。	・外部から専門家を招き、学級づくりの研修会を実施する。 ・経営方針に目標数値を入れた学級経営案を作成し、学級づくりを計画的に進める。	B	・夏季休業中に講師を招き、QIUの分析を行い、2学期からの学級経営に生かすための研修会を実施することができた。 ・学級担任は様々な意見ももたらして、自分の学級の課題について考え、2学期からの具体的な対応策を発表し合うことができた。有意義な話し合いとなった。(「学活や朝の「ふれあいタイム」の時間に取組んだ。) ・学級生活満足度(QIU)の割合については、平均で約50%と目標数値を大きく下回った。しかし、児童評価は昨年と変わっていないため、この数値だけの判断はできないと思われる。	・QIUの結果は学級経営に大いに生かされていると考えられるが、取り組みの結果が数値に表れるには時間を要するようである。具体的目標の数値をQIU以外にするのが望ましい。学校評価アンケートでは、肯定的な意見の結果が約65%であったことから、学校評価アンケートを基準にした方が分かりやすいと思われる。 ・素晴らしい取り組みで、居心地の良い学級づくりができていく学級も多々あるので、校内での実践報告会を実施し、全体に広めるようにする。	A	児童の回答結果から、先生方と子どもたちが一緒に考えて、よりよい学級づくりに取り組まれていると感じた。これも、先生方と子どもたちとの信頼関係があるからだと感じた。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめのない学級・学校づくりができたか	・いじめをしない許さない学校づくりの意識を高める。	・心のアンケートを毎月10日をめぐりに実施し、いじめ早期発見と防止の徹底を図る。	B	・昨年度とほぼ変化はない。学年によってはいくらかいじめからかかるとの事案があったが、学年、管理職の協力を得て、解決するまで一貫して取り組んできた。 ・いじめのない学校の取り組みは保護者には伝わりにくいので、学校側から何らかの形で発信して必要性があると考えられる。	・学校便りの一角に、月に一度のアンケートの結果や気になることを報告するなど学校全体で取り組んでいることをアピールする欄を掲載したり、学年便りや生活面で気になることや指導を続けていることを知らせることで保護者に理解を深めてもらう。 ・学年間で気になることや事案の検討会をする時間を月に一度とする。	B	「いじめ」に対しては、しっかり対応しているが、対応しなければならぬ」という学級の思いが数値にも表れている。先生方に感謝。 ・論議だけでは難しいケースも増えてきている。強固なチームワークでの対応で支えあることが求められている。

②学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から 意見や提言など	
教育活動	●学力の向上	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫改善ができたか	・授業についてのアンケートで、80%以上の児童が「よくわかる」と評価する。 ・国語科、算数科の学習到達度(CRT)で佐賀県平均を上回る。	・課題とまとめを意識し、3つのわかる化を取り入れ授業展開を図る。 ・算数科で児童の態度に応じた少人数指導や習熟度別指導に取り組む。	B	・校内研究の教科である算数科の研究授業では、各学年集団で教材や指導案作りによりユニバーサルデザイン化の3つの「わかる化」を意識した三日月授業モデルに向けた授業づくりができた。 ・指導法改善の加配があるのは、3～6年生であるが、3・4年担当は担当時数の関係で、IT授業のみであった。 ・5・6年については、学習内容によって、習熟度別の少人数授業に取り組むことができたが、進度状況によっては、習熟度別のコース学習の時間が確保できなかった。 ・児童のアンケートでは「よくわかる」が約60～70%であった。 ・算数科以外の教科でも、課題とまとめを明確にした授業展開が図られてきている。	・算数科だけでなく、他の教科においても3つのわかる化を意識した授業展開をより一層図っていく。更に算数科においては、校内研究として取り上げている「しかけ」や、思考力を深める手だてについて研究を進めていく。 ・指導法改善に関わっては、少人数授業を効果的に取り入れることができるように担任と相談しながら計画的に実施していく。	A	先生方が「わかる授業」にしっかりと取り組まれていることを、児童は実感しているようだ。先生方の思いが子どもたちに届いていることを嬉しく思う。
		・家庭学習の習慣が定着できたか	・家庭学習の習慣が身に付いている児童を85%以上にする。	・研修部が中心となり、基本的学習習慣の重点を決め、全校で繰り返し実施していく。 ・家庭学習パンフレットを保護者へ周知する。	B	・昨年度からの取組を年度初めよりスムーズに実施することができ、「家庭学習パンフレット」を家庭に配付し、家庭学習の大切さについて保護者に啓発することができた。 ・家庭での学習習慣の涵養と保護者の意識向上を目的として「三日月家庭学習がんばろう週間」を各学期末に設定し、今回は初めて中学校の期末テストの時期と合わせ、小中連携を図った。期間中は保護者の意識も高く、協力的な意見が多かった。 ・昨年度より家庭学習の充実を目的として取り組んでいる「自主学習」が定着してきている。適宜指導を入れながら、毎週確実に取り組んでいる。	・今年度も引き続き「三日月家庭学習がんばろう週間」「自主学習」の取り組みを継続し、家庭学習の定着を図る。そして、「自主学習」については、より質の高い内容をめざしていきたい。 ・家庭での学習習慣をより確かなものとするために、お便り等で家庭学習の大切さ等について啓発するとともに、保護者の意見等も取り入れていく。	A	学校がどこまで入り込むかという所だと思われ、家庭学習は、家庭の生活スタイルの問題だと思われ。 ・読書を推奨したり、発見したりするの、お便り等、したがって、読書環境を整えていくことと重点を置かれてもいいのかなとも思う。
学校運営	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT利活用を推進することで教育の質が向上したか	・電子黒板・学習用タブレットを活用した授業を行うことで80%以上の児童が「分かりやすい」と評価する。	・電子黒板やタブレットを日常的かつ発展的に活用する。 ・校内研究会を学期に1回以上開催する。	B	・電子黒板・学習用タブレットを活用した授業を行うことで、「おもしろい」「おもしろい」「分かりやすい」と考えられている。 ・校内研究会を学期に1回以上できなかった。	・担当が他の職員へ電子黒板やタブレットを日常的かつ発展的に活用する良さ、便利さを随時伝えていく。 ・長期休業中に研修を行う。 ・自主的なICT機器の活用を授業実践で見せていく。	A	電子黒板などは、特別のものではなく日常的に授業の中に存在していることが、児童の回答結果からわかった。先生方の日々の積み重ねの成果だと思う。
		◎教職員の資質向上	・ユニバーサルデザイン視点に置いた授業づくりをすすめることで授業力は向上したか	・学校評価アンケートでユニバーサルデザイン視点に置いた授業づくりをすすめることで授業力は向上したか	B	・UDの視点を取り入れた学習環境づくりを継続し、特別支援学習を含めた全員の学級担任が指導案を作成し、研究授業に取り組む。 ・授業の中で、しかけを取り入れた授業づくりや児童の思考を深めるためのつなぎの工夫・改善に取り組む。	・UDの視点を取り入れた授業づくりについては、継続的な取組を含めた全員の学級担任が指導案を作成し、研究授業に取り組む。 ・評価の視点を見直し職員の間がばらばらに反映できるようにしたい。	B	教職員の評価が低くなっているが、「3つのわかる化」の評価規程の不明確さ、あいまいさがあることに関係があるかもしれない。先生方が自信を持って評価できるように評価規程の設定の検討を願う。

③特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から 意見や提言など	
教育活動	○特別支援教育	・個別に支援が必要な児童への支援体制を確立できたか	・一人一人の児童理解に努め、積極的に指導・支援に取り組む。個別の指導計画を作成する。 ・全職員あがっての支援体制ができていくと考える教師が80%以上になる。	・特別支援教育に関する研修会を年間2回以上実施し、どのような特性を持った児童にも対応できる教職員の知識とスキルを高める。 ・保護者との連携を密にして、啓発に努める。	B	・個別の指導計画は、各学期に計画書とその学期の反省を踏まえた成果と課題を挙げて次学期への参考にしたい。 ・全体への対応策として、特別支援の考え方や時間割などの実務について、障がい種別の特性を全体で把握し、対処法について確認ができた。 ・個別の支援体制としては、気になる子どもとして全体で確認し、その児童の特性を把握する機会を持った。	・気になる子どもの対応策の中で、特別支援級の児童を取り上げたものの、気になる児童数の多さで情動的に埋もれてしまった感が否めない。 ・教職員のスキルアップについては、県主催の研修会等への積極的な参加を促していきたい。 ・保護者との連携については、各クラスの担任とその保護者には連携できてはいるものの、保護者全体を対象にした取り組みは実施できていないので来年度への課題となった。 ・校内支援体制の流れ等を年度はじめに全体へ提示したものの、職員の十分な理解を得ず個別の対応に終わることが多く、今後も全職員あがっての支援体制の確立を図ってほしい。	A	きつと、どの先生も心がけておられることだと思われ。情報を共有して協力し合うことが大切だと思う。
教育活動	○生徒指導	・教育相談を充実させているか	・教育相談研修会を開催し、児童理解に努め、不登校や問題行動ゼロをめざす。	・気になる児童について全職員で情報共有し、必要に応じてケース会議を開いたりして支援に努める。 ・スクールカウンセラーや各種専門機関と連携して、教育相談活動を充実させていく。	B	・5月末に各学級の気になる子について共通理解を図るための研修会を、6月に担任との教育相談週間、夏季休業中に小中合同教育相談研修会を実施することができた。また、2学期には「担任への手紙」を提案し、実施することができた。実施後のアンケートでは概ね好評であった。 ・11月には不登校及び不登校傾向の児童に関する共通理解を図った。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングも学期末を除き毎月案内パンフレットを配布し、児童や保護者を対象に実施してきた。 ・2学期の「担任への手紙」以外の提案は、部会として企画・提案できなかった。	・気になる子どもの共通理解を図るための研修会を1学期に実施しているものの、その後の様子や部会として把握できていない。部会としての活動を行うために、組織改編や定期的な部会の実施が必要である。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの校内協議をもつことができていないので、関係機関との連携を図るためにも、学期に1回程度実施していく必要がある。	A	学校や子育てについて、そのニーズや価値観が多様化しており、対応に苦慮するケースも増えていると思う。先生方が一人で抱え込まないようにしてほしいと思う。

④信頼される学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から 意見や提言など	
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標の具体化と重点目標の明確化ができたか	・教育目標及び経営方針、重点取組について教職員へ周知徹底し、認知度を100%にする。 ・児童や保護者に周知し、認知度を80%以上にする。	・保護者や地域へは、学校便りやHP、育友会総会、地域懇談会等の場で説明を行い、周知を図る。 ・児童には全校朝会や学年集会等を利用して分かりやすく話をしていく。	A	・学校教育目標の保護者の認知度が8割を超えた。児童の認知度も高くなった。育友会総会や地域の会合等、学校から配布する各種便り等を通じて、継続して伝えてきた成果が出てきたと考えている。 ・経営方針や重点取組について、職員の共通理解はできているので、組織的な取り組みを徹底したい。	・来年度も現在の教育目標の達成を目指し、様々な場を活用しながら学校の教育目標や方針、重点取組を伝えていきたい。 ・「いい顔、いい声、いい心」を合言葉に健康で明るい心の育成を重点化していく。 ・教育目標達成に向けた進捗状況や学校の現状、児童の態度等の情報を継続して伝えていくことで、さらに保護者や地域の理解を進めたい。	A	単純化されているよい。学校教育目標が児童や保護者によく浸透しているのは、先生方がそれを意識して日々の指導をされている成果だと思います。
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の公開ができたか	・月に1回以上発行予定の学校便りや学年便りをはじめ、各種便りを通して学校情報を発信する。 ・学校HPを随時更新し、情報提供を行う。	・保護者や地域を対象に、教育活動や児童の様子など、学校情報を積極的に発信する。 ・気軽に来校でき、相談しやすい雰囲気のある学校づくりに努める。	B	・ホームページの更新を行事ごとに行うだけでなくリアルタイムに行うことができた。 ・各種便りを通して、教育活動の様子等を中心に情報を発信することができた。	・ICT利活用担当者だけの更新だと学校行事の情報のみとなりやすいので、各学年の代表を決め、複数の人間が輪作可能な環境にし、各学年の情報も情報提供ができるようにする。	A	各種のたよりの作成は、ほとんどを時間外の仕事でされていると思う。また、連絡ノートに目を通し、返事を書かれていることで、学校の対応が保護者に伝わっていると思う。
学校運営	○危機管理	・交通安全防止に向けた交通安全意識の育成ができたか	・交通安全防止に向けた交通安全意識の育成が80%以上に上る。 ・校区内巡回パトロールを職員で実施する。 ・育友会と連携し、ヘルメット着用率100%に取り組む。	・アンケート調査では、保護者・児童ともに90%以上が「当てるはず」と回答し、危機管理に対して高い意識が見られるが、必ずしも安全な行動にはなっていない。 ・巡回パトロールにより、下校時の実態把握やその場での効果的な指導ができた。	A	・安全な行動については、教育活動全体を通じ、具体的な場面を想定した指導を工夫していく必要がある。 ・ヘルメットの着用率向上については、引き続き育友会と連携しながら、繰り返し声をかけていく必要がある。	A	緊急メールもよく配信されており、対応されている管理職の先生は大変だと思う。多くの子は理解できていると思うが、理解の難しい子への対応はどうするかという視点も必要と思う。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者評価委員会から 意見や提言など	
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成を推進できたか	・規則正しい生活習慣を身につけて、朝食摂取率を95%を上回る。	・立腹教育、ノーテレビノーゲームデーを推進すると共に、げんきカード、給食日当点検表を活用して指導し、健康的な生活習慣の意識を高める。	B	・「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムがとれている児童が多く、土日も含む、毎日必ず朝食を摂る児童の割合も高かった。 ・毎月のノーテレビ・ノーゲームデーの達成率は年間平均で約73%と過去最高の達成率となっており、毎年達成率も上がってきている。今後も定着させるために、継続して実施する必要がある。	・来年度も給食日当点検表を活用した清潔指導や保健タイム、元気カード等を活用した保健指導や身の回りの清潔や健康についてさらに意識を高める。	B	食に対する好き嫌いは、家庭の問題であり、学校ではなかなか指導が難しい。食に対する考え方は多様化している。従来の食育では難しい。食のスーパーバイザーが必要になってくるかもしれない。

4 本年度のまとめ・次年度の取組
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり・環境づくりに取り組み、分かりやすい授業の実施と落ち着いて暮らせる場づくりのために、全職員で取り組んでいる。学習状況調査や保護者向けや児童向けの学校評価アンケートでもその成果が表れてきている。学校生活においては、正しい言葉遣いや思いやりのある行動ができるような指導を今後とも継続して行っていくことが必要である。そのために、「学級づくり」「仲間づくり」について研修を深め、一人一人の教師のスキルを高めていく必要がある。また、家庭学習の習慣が十分に身につかない児童もおり、「家庭学習の手引」「自主学習メニュー」を活用し、家庭の協力をえながら学習習慣の定着率を向上させることも課題である。健康・体づくりに関しては、ノーテレビ・ノーゲームデーの取り組みを継続することで、視力の向上につなげることができた。発育測定でも、高学年で全国平均を上回っている。また、運動能力テストでも、県内でも高い結果を残している。今後も健康・体づくりの取り組みを継続すると同時に、自他の安全な生活のためにルールやマナーの定着を重点項目に位置づけ指導を強化する必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目